


※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A3 用紙片面におさまるように作成してください。
 ※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

<p>研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート</p> <p>※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、<award@ml.nits.go.jp>宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。</p>	<p>※事務局記入欄</p> <p>受理No. : C-9</p>
<p>【学校名・氏名】 鳥取県倉吉市立成徳小学校 山名 毅</p>	<p>【応募部門】</p>
<p>【修了研修名】 平成 30 年度教職員等中央研修</p> <p style="text-align: center;">第 3 回副校長・教頭等研修</p>	<p style="text-align: center;">地域とともにある</p> <p style="text-align: center;">学校実践部門</p>
<p>【活動名】 学校運営協議会に係る講演</p> <p style="text-align: center;">— 地域学校連絡協議会で展望を語る —</p>	
<p>解決すべき課題</p> <p>「コミュニティ・スクール」が目指すところを考えると、これからの学校運営協議会は、新しい学力観・学校観の中で、担うべき役割および「学校と地域の連携・協働」への展望について理解した上で、現在の取り組みの発展およびその質的な向上を図る必要がある。</p>	
<p>目標・方針</p> <p>【目標】 新しい学力観・学校観の中で、地域学校連絡協議会が担うべき役割および「学校と地域の連携・協働」への展望について理解した上で、倉吉市内の学校運営協議会の取り組みの質的現代的な向上を図る。</p> <p>【目標達成に向けた方法および留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 令和元年度倉吉市地域学校連絡協議会において、パワーポイントを活用したプレゼンテーションによる講演を行う。 ■ 学校運営協議会の果たしてきた役割と今後の展望を持つことができるよう「学力観」の変遷を軸に、今後あるべき姿を考えることができるような構成とする。 	
<p>活動内容</p> <p>1 日 時 令和元年 5 月 28 日（火）14:00～</p> <p>2 場 所 鳥取県倉吉市上灘町 上灘公民館</p> <p>3 活動内容 令和元年度倉吉市地域学校連絡協議会における講演</p> <p>4 演 題 「『いい学校』を作るために何がほんとうに必要なのか 一考」 — 「学校と地域の連携・協働」への展望 —</p>	

5 講演の概要
【新しい学力観について】
 上野千鶴子氏 東京大学入学式祝辞の引用をとおして

- 「学力観・教育観の変遷」に迫る
- 「生きる力」の現代的解釈の背景を探る

【アプローチの視点について】
 「今ある『地域学校委員会（学校運営協議会）』に何を加えるか」という視点をとおして

- 拡大された「地域」の現代的解釈を考える
- 「Win-Win な関係」の構築を提案する

6 講演のレジュメ



「Win-Win な関係」（当日のパワーポイントより）



* 右のスライドは、欧米で浸透している企業等における「社会貢献」の発想を応用しようとするものである。

活動の成果

- 自身の「地域学校委員会（学校運営協議会）」に係る考え方を再構築することができた。
- 倉吉市内の地域学校委員に、新しい視点を含めた取り組みについての提案を行うことができた。
- 実質的な効果は、今後の各地域学校委員会の取り組みの中に検証の材料があるため、倉吉市教育委員会に提出される報告書に注目したいと考える。（「コミュニティ・スクール」のあり方も含めて）

アピールポイント（アイデアや工夫）

- 「学力観の変遷」等にみられる理論的側面と、「民間企業との連携による取り組み」等にみられる実践的側面との往還を意図した内容構成とした。
- 「時代のニーズや社会の変化」と「地域学校委員会のミッションの変化」との関係性とその必然性について着目しながらの内容構成とした。